



基本理念「心のかよう医療を行い、信頼される病院」

かわせみ

R7 年度
冬号
VOL.67

◆乳腺・内分泌外科のご紹介

◆泌尿器科のご紹介



新年のご挨拶

林 道廣 (はやし みちひろ) 病院長

新年あけましておめでとうございます

平素より当院につきましては格別のご高配を賜りありがとうございます。

当院が地域医療支援病院の認定を受け、今年で5年の節目を迎えることとなりました。この間、地域の医療を支える急性期病院としての使命を果たすべく努めてまいりましたが、コロナ禍以降、病院の”いしずえ”たる人材の確保に難渋し、やむなく一つの成人病棟を閉鎖するに至っておりました。このため、救急の応需や入院のご依頼にしばしば制限をお願いせざるを得ない状況となり、多大のご迷惑をおかけしておりました。本日に至るまで、病院一丸となって一日も早い再開を目指してまいりましたが、このたび、ようやく再開棟するめどがたってまいりました。今後は、以前に増して、当院に求められる急性期医療を全うするとともに、新興・再興感染症に対応すべく患者移送訓練や、災害医療訓練などを通じて、地域の医療機関の皆様と連携をさらに深め、感染症医療、災害医療を担う砦ともなるべく努めてまいります。

あらためまして当院は、『心のかよう医療を行い、信頼される病院』を基本理念に、患者の皆様や地域との信頼関係を築きながら、安全かつ安心と満足の得られる質の高い医療を提供することが使命であると考えています。引き続き住民の皆様のご健康回復・増進、ならびに地域医療の発展に貢献してまいりますので、医療関係者の皆様方におかれましては、本年も変わらぬご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

乳腺・ 内分泌外科 のご紹介



寺沢 理沙
てらさわ りさ
乳腺・内分泌外科
部長

Dr. Terasawa



資格

日本外科学会 外科専門医・指導医、日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、検診マンモグラフィ読影認定医（A判定）

“ひらかた”で受ける、安心の専門診療

市立ひらかた病院乳腺・内分泌外科では、乳がんを中心とした乳腺疾患の診療を専門に行い、検診・診断から手術、薬物療法、術後フォローまで一貫した医療を提供しています。

地域の先生方からのご紹介を受け、患者さん一人ひとりに最適な治療方針を検討する体制を整えています。

当科では年間約100件の乳がん手術を行っています。乳房部分切除や全切除術だけではなく、形成外科と合同で行う同時一次一期再建術も行っています。また、治療については、放射線科、形成外科、病理診断科などとの密な連携により、個々の症例に応じた集学的治療を実践しています。

オリゴ転移を疑う症例に対しては、他科の医師とも協力し、病変の再生検等を行い、がんの種類に応じた全身治療と



外来化学療法室ベッド

局所治療を組み合わせた新たなアプローチにも取り組んでおり、長期生存と生活の質の両立を目指しています。

外来では、診断から治療選択、術後のフォローアップまで一貫して担当医が関わり、患者さんが安心して通院できる環境づくりを心がけています。外来化学療法室では、専門看護師や薬剤師、管理栄養士がチームで支援を行い、副作用対策や生活指導にも力を入れています。

地域の開業医の先生方との連携を重視しています。

紹介・逆紹介の流れもスムーズに行えるよう、地域の開業医の先生方との連携を重視しています。画像検査や病理結果の共有、迅速な報告体制を整え、診療の継続性を保ちながら安心してご紹介いただける仕組みを構築しています。

患者さんの笑顔を守るために、そして地域の乳腺医療の質を高めるために、市立ひらかた病院乳腺・内分泌外科は、これからも地域医療の一翼を担い、先生方とともに歩んでまいります。



外来化学療法室リクライニングチェア



泌尿器科のご紹介

徳永 雄希 とくなが ゆうき 泌尿器科 医長

体への負担が少ない“ダ・ヴィンチXi”による、精密なロボット手術

近年、泌尿器科治療は大きく進歩しており、市立ひらかた病院では高度な医療機器である**手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」**を導入し、前立腺がん・腎がん・膀胱がんなどに対する精密なロボット手術を行っています。体への負担が少なく、傷が小さく、回復が早いことが特徴です。

特に前立腺がんは加齢とともに増え、男性で最も多いがんです。市民検診やかかりつけ医でのPSA（前立腺特異抗原）検査が高値の場合、早めの受診がとても重要です。紹介状をお持ちの場合、予約初診日に即日でのMRI検査や前立

腺生検が可能で、数日以内に診断結果をお伝えできる体制を整えています。地域の医療機関からのご紹介により、医療相談・連携室にて予約をお取りします。

市立ひらかた病院でロボット手術を担当する医師は全員、Da Vinciサージカルシステムの正式Certificate（資格）を取得した専門医です。麻酔科・看護師・臨床工学技士と連携し、器械点検や術前カンファレンスを毎回実施するなど、医療安全を最優先にしたチーム医療で手術に取り組んでいます。

放射線治療、薬物療法（ホルモン治療・新規内服薬）など多様な治療法

前立腺がんの治療には、ロボット支援前立腺全摘除術のほか、放射線治療、薬物療法（ホルモン治療・新規内服薬）、経過観察など多様な方法があります。市立ひらかた病院では患者さんの状態・生活背景に合わせて最適な治療をご提案しています。

特に手術が必要と判断された場合、当院では診断確定から2～4週間以内に手術を行うよう努めています。がんと診断されてから治療開始までの期間が長くならないよう、迅

速な治療提供を重視している点は当院の大きな強みです。

また、市立ひらかた病院ではPSA検査や健康診断も行っています。「トイレが近い」「夜間に何度も起きる」「健診でPSAが高かった」など気になる症状があれば、どうぞお気軽に市立ひらかた病院泌尿器科へご相談ください。地域のみなさまに安心して受診していただけるよう、質の高い泌尿器科診療と先進的なロボット手術をこれからも提供してまいります。

市民公開講座を開催しました



斯波 宏行 医師

当院では市民の健康増進に寄与するため、年6回市民公開講座を開催しています。今年度3回目の講座は「慢性硬膜下血腫」「脳ドック」をテーマに、脳神経外科副部長の斯波 宏行医師と放射線科主任の山本 涼介診療放射線技師が講演を行いました。

斯波医師から、慢性硬膜下血腫の特徴や発症リスク、早期発見・治療の重要性について、また高齢者や抗血栓薬を服用している方への注意点等も含めて解説しました。

山本診療放射線技師から、自身の介護体験談を交えながら、**脳卒中や認知症が介護の原因**となることがある点に触れ、3.0テスラMRIを用いた脳ドックの検査内容や脳病変の早期発見について説明しました。

参加数は105名で、参加者からは「**頭部の保護、転倒後のケア**を心掛けたい」「具体的な体験談で分かりやすかった」といった感想が寄せられました。

当院では、今後も**地域の皆さまの健康づくりに貢献**できるよう、さまざまなテーマで市民公開講座を開催してまいります。



山本診療放射線技師の講座

地域医療連携懇談会報告

テーマ ▶ **ペイシェントハラスメント**

第1部

講演

須藤 大場法律事務所 弁護士 須藤 隆二氏

「医療現場におけるペイシェントハラスメント対策」

森ノ宮医療大学 看護学部看護学科教授 武 ユカリ氏

「地域の医療従事者で考えるペイハラ対策」



第2部

パネルディスカッション



第1部は須藤弁護士から、ハラスメント問題の構造や定義、医療機関が取るべき具体的な対応策、応召義務との関係など法的視点からご講演いただきました。続いて武教授からは、在宅、医療現場でのハラスメントに焦点を当て、事例を交えながら、現場で直面する問題に対して適切に対応するための知識やスキルを学ぶことができる講演内容でした。

第2部パネルディスカッションでは、参加者への事前アンケートの回答で得られた、現場でペイシェントハラスメント問題に直面された経験や知見を基に、講師から対応策等の意見交換を行うことができ、大変貴重な時間となりました。

参加数は77名で、医療機関や訪問看護ステーション、調剤薬局、地域包括支援センターなど、医療・介護と幅広い分野からご参加いただくことができました。

新任医師のご紹介

■ 泌尿器科 松田 卓也 ■ 小児科 大村 祐希 ■ 精神科 松本 和夫

9月末をもって退職いたしました。ありがとうございました。

■ 小児科 太田 佳隆 ■ 泌尿器科 芳賀 有希